

笑顔をつくる、じいじの「R」

山^{やま}中^{なか}一^{かず}真^ま

引き戸を開けると、かすかなコーヒーのにおいがした。そこはじいじの作業部屋だ。作業台には電動ドリルやのこぎりなどの大工道具、棚にはそば打ち道具やお鍋、何種類ものコーヒーマルが所狭しと並んでいる。じいじの作業部屋は、おもちゃがギュル詰めびつくり箱のようだ。僕は、いつもじいじの部屋に入るとワクワクに包まれる。じいじは、部屋にいないときも、僕たちにクワガタやカブトムシを取ってきてくれたり、おもちゃと一緒に直してくれたり、庭のブルーベリーや桑の実でジャムを作ってくれたりする。じいじは、次にどんなことをしてくれるんだろう。じいじは、いつも予想できないような楽しい経験させてくれる。

ある日、僕は弟と一緒に何か面白いことはないかと、じいじの部屋に入ると、そこには子供二人がちょうど入れくらいの小さな木の家が置いてあった。その家には、煙突、カラフルな色の窓、小さな隠し扉がついていて、玄関ドアにはカギとインターホンまでついていた。僕も弟も一目でこの小さな家が大好きになった。僕は、じいじに「この家は、どうやって作ったの？」と聞いた。じいじは、「この家は、廃材を使っているんだよ。窓はなんだと思う？下敷きだよ。きれいでしょ？」と教えてくれた。ちょうどその時は、学校で三Rについて授業で教わったところだった。三Rとは、リユース、リデュース、リサ

イクルの三つの頭文字をとって省略したものだ。僕は、じいじの話聞いて、これこそ、三Rのリサイクルだなと思った。この小さな家の他にも、じいじの作業部屋の廃材は、次々といろいろな物に変身していく。ペンチに変身して地域の人たちのいこいの場になったり、紙芝居の枠やおままごとのキッチンに変身して、被災地の子供達のプレゼントになったこともある。ゴミになるはずだった廃材が、役立つものや楽しませてくれるものに変身して、みんなの笑顔を作ってくれる。じいじのリサイクルは、まるで魔法のようだ。ペットボトルや缶の回収など教科書通りのリサイクルだけでなく、工夫すればリサイクルのアイデアは無限にふくらんでいくことを、じいじは教えてくれる。僕は、そんなじいじのことをとても尊敬している。

僕は今、三Dデザインの勉強をしている。ノギスという道具を使っていたときに、じいじが、「ノギスを上手に使えるなんて、すごいね。」とほめてくれた。僕は、じいじに少し近づけた気がして、うれしくなった。もし三Dデザインがもっと上達したら、じいじのようにリサイクルにつながるアイデアを形にしたい！じいじでも作れないような物や道具があるときは、僕がじいじに作ってあげたい！

じいじへ

「いつも、ありがと！ほくの進化を見ていてね！」